ふるさとの
植物を守ろう

No. 15 December 2014
植物園と市民で進める
植物多様性保全ニュース
Japan Association of Botanical Gardens
公益社団法人日本植物園協会

# 有用植物を保全する　日本版ナショナルコレクション構想

新潟県立植物園　倉重 祐二

植物園が植物多様性の保全を行うことの背景には，日本に自生する約 7,000 種類の維管束植物のうち，1,779 もの植物が絶滅の危機に瀕している（2012 環境省）という事実があります。

植物園は生息域外保全を行う最重要拠点という自身の認識や環境省の位置づけから，日本植物園協会では 2006 年に各地域の植物園が保全の拠点となって市民団体，行政や研究機関等と連携して効率的に生息域外保全を進める植物多様性保全拠点園ネットワークを組織し，現在は「植物多様性保全 2020 年目標」の元，「わが国のすべての野生植物種の生息域外保全と，有用植物資源の系統保存の中核として貢献する」ことをミッションに，2020 年までに日本産絶滅危惧植物種の 75 % (1,335 種 ) の生息域外保全を達成すべく活動を進めています。

2013 年 5 月の植物園協会の総会では植物多様性保全委員会から，加盟園で 1,115 種の絶滅危惧植物を保有していることが報告され，順調に生息域外保全活動が進んでいることが報告されました。

## ナショナルコレクション構想

このように 8 年を要して，やっと野生植物の生息域外保全事業が諸についた感がありますが，2020 年目標であげられている有用植物の系統保存ついては，環境省の状況調査が行われている絶滅危惧植物以上に困難が予想されます。植物園協会ではこの「有用植物」を定義していませんが，協会内では園芸植物と薬用植物が大きな比重を占めることが予想されます。

ここで参考になるのが，イギリスで行われているナショナルコレクション（National Plant Collection）です。これはイギリスで栽培される野生種や園芸植物を保存，育成，増殖，記録する組織で，National Council for the Conservation of Plants and Gardens（NCCPG）という民間団体によって運営されています（http://www.nccpg.com/Conservation-resources/NCH-Handbook-2008.aspx)。このイギリスのナショナルコレクションを参考にし，絶滅危惧植物を保全してきた実績を活かして有用植物の保全を行おうというのが，植物園協会の日本版ナショナルコレクション構想です。多くの植物園が保有する園芸植物などの価値が明らかになることで，保全の意義が高まり，一般の方にアピールすることにつながると思います。

## 日本版ナショナルコレクション

イギリスのナショナルコレクションを参考としても，日本に適した制度に改める必要があります。そこで昨年度から植物多様性保全委員会内にナショナルコレクションの構築に関する分科会を設置し，外部有識者を含めて検討を行っています。ここでは，観賞用園芸植物と薬用植物の保全を中心として，これまでの検討会での議論や私見も含めて，現状や事業の概要についてまとめました。

### 現状の認識

1）長い歴史を誇る日本独自の園芸植物でも野生植物と同等か，さらに危機的な状況にあると想像される
2）これまでにどのような栽培品種が存在し，なにが現存しているのか，ほとんどの分類群で把握できていない
3）伝統園芸植物等は，栽培が難しい種類が多く，保存基盤が個人や愛好会などに限定されていることも多い
4）薬用植物は観賞園芸植物や栽培品種とは区別して扱う必要がある
5）文献や栽培情報等の収集も必要
6）早急な対処が必要なコレクションが存在する

### 事業の概要

1）コレクション保有状況調査
2）分類群及び栽培品種の保全プライオリティーの決定
3）ナショナルコレクションとしての認定
4）情報収集とデータベースの構築，情報の公開
5）危機に瀕したコレクションの橋渡し
6）以上を実施するにあたっての行政，研究機関，愛好家団体や個人コレクターとの連携
7）絶滅危惧植物の保全事業との統合

### 短期的な取り組み

1）メーリングリストを作成して，情報を交換，共有するグループをつくる
2）協会内，協力団体でナショナルコレクションの認定をはじめる

3）広報や巡回展示などを行うことで対外的な PR を行う
4）危機に瀕したコレクションの移譲先を探す「橋渡し事業」を開始

日本版ナショナルコレクションについては，課題も多く，検討もはじまったばかりですが，早急に対応が求められるコレクションがあることが明らかになっています。今後，皆様のご協力を仰ぎ，生きた文化財とも言える園芸植物をはじめとする有用植物を守り，後代に伝えて行きたいと思います。

来年度の海外事情調査では，イギリスで植物園及び個人のナショナルコレクションを中心とした視察を 7 月 4 日～ 7 月 12 日に行います。イギリス夏の最大のガーデニングイベント，ハンプトンコートフラワーショーも訪問しますので、会員の皆様のご参加をお待ちしております。

100 品種ほどが現存するヤブコウジの栽培品種

報告

## 西日本地域植物多様性保全拠点園交流会について

大阪市立大学理学部附属植物園　厚井 聡

平成 26 年 10 月 31 日と 11 月 1 日に，大阪市立大学理学部附属植物園において「第 1 回西日本地域植物多様性保全拠点園交流会」を開催しました。この交流会は，植物園同士のネットワーク構築のために主に関西地区の協会加盟園で行ってきました「近畿地方植物多様性保全拠点園交流会」を西日本地域に拡大して開催した初めての会議となります。関西，中国，四国，さらには関東と中部の植物園からもご参加頂きました。初日の会議は，17 施設 23 名および当園のスタッフ 8 名が参加して行われました。はじめに本交流会を「西日本保全拠点園交流会」に改称することが飯野議長から提案され，承認されました。つぎに，各園の現状や保全活動の報告がなされました。その後，植物多様性保全委員会の遊川委員長から，委員会の活動に関する説明がありました。関東の保全拠点園交流会についてもご紹介頂き，「技術者レベルで自由に情報交換できる場として継続させることが重要」というご意見を頂きました。大阪市立自然史博物館の佐久間氏からは，「植物園以外の自然史系博物館にも声をかけていってはどうか」というご助言も頂きました。会議の後は懇親会を行い，和やかな雰囲気のなかで親睦を深めました。

翌日は小雨の降る中，10 名の方にご参加頂き施設見学会を行いました。室内で当園の概要を説明した後，緑色の花を咲かせる桜のシンニシキ，日本の代表的な樹木を展示した日本産樹木見本園，当園に最初に導入されたメタセコイアなどを見て回り，色々と意見交換を行いました。次回は広島市立植物公園で開催する予定です。

## 植物研究会（大阪市立大学理学部附属植物園）について

大阪市立大学理学部附属植物園　厚井 聡

平成 26 年 10 月 31 日に大阪市立大学理学部附属植物園において「第 3 回植物研究会」を開催しました。第 1 部は「植物を菌類との関係から考える」というテーマで，3 名の講師の方に講演して頂きました。佐久間大輔氏（大阪市立自然史博物館）による「菌類の研究・教育拠点としての植物園」という講演では，植物園が植物や菌類の博物館としての役割を担っていくためには「情報収集の核になる」ことが必要であり，園内で行う観察会などを活用してデータ（標本；生個体の観察に基づく情報）を蓄積してことの意義などについてお話し頂きました。つぎに，遊川知久氏（国立科学博物館筑波実験植物園）による「菌根共生を使ったランの保全」という講演では，ランの菌根共生系の特徴や自生地播種実験について解説して頂き，ランの保全・育成に対する菌根共生の重要性についてお話し頂きました。最後は飯野盛利氏（大阪市立大学理学部附属植物園）による「植物と土壌病原菌」という講演で，病原

抵抗性に突然変異を起こしたイネを用いた研究成果についてお話し頂きました。つぎに第２部として「大阪市大植物園の研究材料の紹介」と題し，植松千代美氏による「花弁が斑入りになる植物」と，筆者による「奇妙な水生被子植物カワゴケソウ科」という講演が行われました。本研究会を通して，植物と様々に関係する菌類や植物の多様性ついて新たな視点で考える良いきっかけとなりました。

## ネットワークの構築（旭川市北邦野草園）

旭川市北邦野草園　堀江 健二

本園では市民，来園者とのネットワーク構築の一助として印刷物を発刊しております。

ハンドブック「旭川の植物」（2011 年発刊）は，旭川市で見られる代表的な季節毎の植物 200 分類群を，携帯に便利な図鑑として作成しました。観察会でも有効活用しております。

「旭川市蛇紋岩地帯の植物の調査研究」（2012 年発刊）は，国際花と緑の博覧会記念協会の助成を受けて行った事業の報告書です。旭川市の蛇紋岩地に分布生育する蛇紋岩植物，低山地の蛇紋岩地に生育する高山性植物，蛇紋岩地に特異的な分布をする植物を対象に調査研究し，解明したものです。

「旭川市北邦野草園研究報告書」（2013 年より発刊）は，旭川市を中心にした植物や自然史的な内容を掲載した野草園の紀要です。地域の植物相，植生をはじめ昆虫，エゾサンショウウオ等の報文が発表されております。

「旭川市維管束植物～標本を基にした目録～」（2014 年発刊）は，証拠標本に基づき旭川市に自生している維管束植物 125 科 448 属 1,002 分類群を，分子系統分類体系（APG Ⅲ分類体系）に準拠して収録しました。

おかげさまでいずれの印刷物も好評で，専門家からも高い評価を受けております。

コラム

## 「いい植物園」と「そうでもない植物園」，それとも「入園者の多い植物園」か

日本植物園協会名誉会員　坂﨑 信之

この表題は，チョット刺激的かもしれないが，2014 年 9 月 26 日毎日新聞のオピニオン欄に掲載された若い方（22 歳）の投稿〈展示生かし「いい博物館」を〉の表現を一部使わせてもらったのである。

この投稿は，“ 博物館には「いい博物館」と「そうでもない博物館」があるように思う。「いい博物館」では学びが大きい。展示資料がさまざまなツールを通して理解できる。一方「そうでもない博物館」は資料を見ただけで終わってしまう。いい資料が展示してあっても，解説が不足していたり，また，基礎的な知識がなければ理解しにくい表現で書かれていたりする。博物館は社会教育施設であり，学びを提供する場である。来館者が学びを深められる工夫が必要と考える ” という主旨である。新聞の一読をお勧めしたい。

失礼ながら実は，今時こんな考えを持っている若い方がいるとは思っていなかった。燭光を見いだした。ここでは「博物館」を「植物園」に置き換えて考えてみよう。

当然のことに植物園に身を置く人は「いい植物園」を目指すべきだろう。ところが，今や「いい植物園」どころか「そうでもない植物園」以前に問題があるのが現実ではなかろうか。

人件費も含めて全てを入園料などで賄わねばならない私立植物園は厳しい。実際のところ「いい植物園」とは，一朝一夕にはできない日常の努力の賜である。とはいえ，儲からなくても「何とかやっていける植物園」でなければ理想が高くとも経営は長続きしない。

公立の植物園でも事情はあまり変らない。「いい植物園」である前に「入園者の多い植物園」を要求される。従って，植物園は珍奇な植物で目を惹き，花でも綺麗に沢山植えておけばそれでお客が楽しみ満足する。入園者が増えれば評価される。即ち「入園者の多い植物園」→「市民から愛される植物園」→「予算を付ける価値のある植物園」という構図になる。

今の経済社会を見ると「いい商品」が「売れる商品」ではない。「売れる商品」が「いい商品」なのである。だから「入園者の多い植物園」が「いい植物園」ということだ。

考えられる一つの方法，それは「見世物に徹すること」だ。例えば，材料は市場で仕入れた「根のある切花」と割り切って花壇に沢山植える。咲き終ったら捨てる。なら，栽培管理の技術者は不要。いわば絵が上手にかける人がいれば事足りる。昔から菊人形など「見世物」はあった。しかし，手を替え，品を変えてもなかなか長続きしないことは歴史が示している。

生き物を扱う「動植物園」は「博物館」より維持管理の面で厳しいと思う。そこに職を持つ人は生き物を取り扱う技術・技能を要求される。単に生かしておくだけでなく，活き活きとした状態でなければならないのだ。展示という仕事の以前に大きな問題がある。

お金も時間もかけないで「いい植物園」をつくることができるだろうか。問題を突き詰めれば人である。他の分野でも同じだと思うが，植物園に関していえば，基礎の教養は勿論，蒐集，栽培保存，展示など専門職の教育・養成に時間と金がかかるのはいうまでもない。

今は何でも経済優先，強い者が勝ち，それが自由経済の原則といわれれば，勝負事，バクチ優先でカジノをやろう，知性，教養などは糞食らえ。「いい植物園」は不要，「そうでもない植物園」でも「入園者の多い植物園」なら良い，ではもはや社会教育施設とはいえまい。

## 各園のコレクション紹介

### 神奈川県立フラワーセンター大船植物園における「大船系ハナショウブと大船系シャクヤク」の品種保存について

神奈川県立フラワーセンター大船植物園　富田 裕明

当園の前身である神奈川県農業試験場では，明治から大正にかけて輸出を目的にシャクヤク，ハナショウブなどの花き類の品種改良が行われました。当時はシャクヤク698品種，ハナショウブ300品種が存在していましたが，その後，関東大震災や戦災などの混乱により多くの品種が失われてしまいました。現在当園ではシャクヤク145品種，ハナショウブ36品種を保存しており，それぞれ特徴のある品種群として大船系シャクヤク，大船系ハナショウブと位置づけています。大船系シャクヤクは *Paeonia lactiflora* の系統で，花弁の重なりが多い中晩生品種を中心に，バラエティーに富んだ形質を備えています。大船系ハナショウブは主に江戸系ハナショウブから改良されているため類似点がありますが，優しい雰囲気を持つ六英咲きが多く，‘朽葉’のように他の系統にはない色彩を持った品種があります。

現在は一般公開しながら品種保存をしていますが，ウィルス感染と思われる生育不良や連作障害などが発生し問題となっています。シャクヤクは植栽場所の定期的な移動，ハナショウブでは土壌の入れ替えや，ポットでの育苗などを行い，維持管理に努めています。また，一部の品種については異名にもかかわらず形質が同じであったり，文献とは形質が異なるなど，ラベルの混乱が確認されています。長年にわたる正確なラベル管理の困難さを感じています。

今後もこれら貴重な大船系シャクヤク，大船系ハナショウブを保存し，ご来園の皆さまにお楽しみいただけるよう管理を行っていきたいと考えています。

大船系ハナショウブ‘朽葉’．他の系統にはない茶色味を帯びた独特の色合いを持つ．

大船系をはじめ，様々な品種が咲き揃ったシャクヤク園

このニュースレターが，植物とその保全に関する情報交換の場の一つとなるよう，工夫していきたいと思います。各地の諸団体の取り組みもご紹介していきますので，共有したい情報やご意見等を，右記の協会事務局宛にお寄せください。よろしくお願いします。

編集・発行　公益社団法人日本植物園協会

〒114-0014 東京都北区田端 1-15-11-201
TEL: 03-5685-1431 FAX: 03-5685-1453
URL: http://syokubutsuen-kyokai.jp/
E-mail: seed@syokubutsuen-kyokai.jp